2020 年 9 月 14 日放送

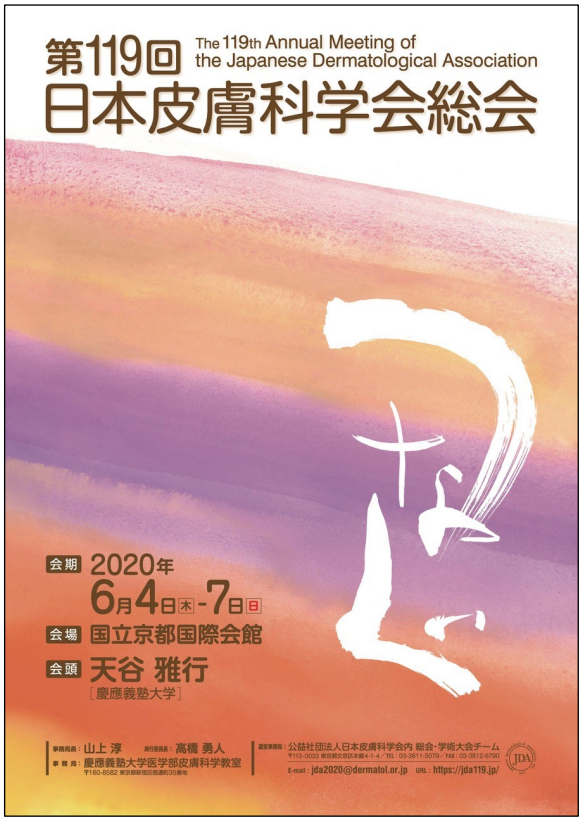
「第 119 回日本皮膚科学会総会 ①
初の完全 WEB 総会を終えて」

慶應義塾大学　皮膚科
教授　天谷　雅行

はじめに

2020 年 6 月 4 日より 4 日間、第 119 回日本皮膚科学会総会を WEB 開催させていただきました。先ずは、大きな障害もなく無事に終了することができましたこと、講演者の皆様、総会事務局の皆様に、心より感謝申し上げます。総会の歴史の中でも、初めての完全 WEB 開催であり、また、完全 WEB 開催と決定してからの準備期間が 6 週間であったこともあり、会員の皆様には至らぬ点も多々あったと思いますが、どうかご容赦ください。

今回、初めての完全 WEB 開催を経験し、今後のためにも、舞台裏も含めてお話しできればと思います。



完全 WEB 開催までの経緯

本総会に関して、2 年前より、慶應義塾大学皮膚科学教室、同窓会および皮膚科学会事務局において準備を重ねて参りました。2020 年は、慶應義塾大学医学部皮膚科学教室が開設 100 年を迎える大きな節目の年でもありました。そして、東京オリンピック・パラリンピックの

開催が予定されていた年でもあり、日本中が緊張と興奮の中にいる時期でもあるはずでした。

学会のテーマは「つなぐ」とさせていただきました。「人をつなぐ」ことがいかに大切か、そして「つながる」ことで人はどれだけ強くなるか、常日頃から感じており、最も大切な言葉と思っております。総会のポスターでは、書家の川尾朋子さんが書いていただいた「つなぐ」に、色彩作家の内藤麻美子さんが皮膚の構造をイメージした色をつけていただきました。

ところが、2020 年初頭から、新型コロナウイルス感染症 COVID-19 のパンデミックにより事態は一変しました。2 月の時点の状況から、京都国際会館において多くの参加者が集まると感染拡大の危険が十分に考えられました。そこで、京都国際会館で現地開催はするものの、参加者の危険、不利益を最小限に抑えるため、懇親会等の会食を伴う企画をすべて中止とすることを決めました。さらに、入り口には発熱モニターを設置する、会場の椅子の数を半数以下にするなど、Social Distance を十分にとった上で参加ができるよう、準備を始めました。さらに、参加困難な会員のために WEB 配信を併用するハイブリッド開催の形での様々な検討をいたしました。

しかし、感染はさらに拡大し、4 月 7 日には 7 都道府県の緊急事態宣言が発令され、現実的に首都圏から京都への移動が困難となりました。そこで、4 月 14 日の緊急理事会において、予定通りの会期日程にて完全 WEB 開催とすることが決定されました。学会開催までは、6 週間しかありませんでした。この 6 週間で、できることを最大限しようと事務局は一丸となりました。

完全 WEB 開催としたことにより、講演者の方々には、あらかじめ講演内容をビデオファイルとして登録していただく必要がありました。突然のお願いにも関わらず、ビデオファイルを初めて作成された方々もたくさんおられる中、計画をしていた講演の 8 割を超える講演者の皆様に事前ファイルの登録をしていただきました。残念ながら一部のセッションは中止とせざるを得ませんでしたが、特別講演、教育講演では、海外 22 演題を含めた合計 229 演題で、ビデオファイルを登録いただきました。また、一般口演 111 題、一般ポスター415 題、英語一般口演 38 題、英語ポスター75 題のデジタルデータを事前登録いただきました。講演者の皆様のこのご協力がなければ、総会は成立いたしませんでした。心より、講演者、発表者の皆様に感謝申し上げます。

WEB 開催ならではの利点

参加者に関しては、当初の予測を大幅に上回り、5,900 名を超える方に参加いただきました。会員の皆様、本当にありがとうございました。この場を借りて、改めて御礼申し上げます。診療等でお忙しい時間の中でも、育児、介護等で地元を離れることができない方々にも、講演を視聴していただけたのは、WEB 開催の利点も、その需要も十分あると感じました。

また、いくつかのセッションは、Live 配信としました。会頭講演は、初日木曜日に Live 配信をいたしましたが、2,151 名の聴講がありました。また、海外講演等が中止となったことを受けて、苦しい台所事情から会頭講演の再放送をさせていただきましたが、2 回目は 951 名、翌日の 3 回目は 840 名、合計すると 3,942 名になります。これは全くの想定外で、驚いております。この数値は、私自身大きな勇気と元気をいただきました。

また、新型コロナウイルス感染症対策緊急シンポジウム、特別招聘シンポジウム『テクノロジーの発展，そして社会危機の中で変わる社会と医療（未来につなぐ)』においては、2,000 名を超える聴講がありました。また、教育講演においても、教育講演 27「知っておくと役に立つ食物アレルギー最新情報」、教育講演 42「小児皮膚科の最新情報」、教育講演 43「皮膚科医が知っておくべき医療制度と倫理」などにおいては、1,100 名を超える聴講がありました。これらの聴講数は、現地開催ではあり得ない数の方々に聴いていただいたことを示しています。部屋に入れる人数に上限がない WEB 開催ならではの利点がうまく作用したと思います。

総会後のアンケートにおいても、「非常によかった」48.3%「よかった」42.2%と、合わせて 90.5%の方に高く評価いただきました。参加者の皆様からも様々な声をいただきました。「高齢となりなかなか学会場に行けない状況なので、WEB 開催をしていただいて感謝しています。」「自分の診療所を休診とする必要も無く、交通費と移動時間を節約でき、多くのセッションに朝から晩まで、一日中参加できました。」「モーニングセッションもパジャマで参加できました。」という声もあり、パジャマで総会との公式 Twitter のハッシュタグも生まれました。「満員を気にせず、スライドもよく見える状態で参加でき、集中して聴講できました。」などなど、多くの声をいただきました。今後の学会形式に関しては、現地開催と WEB 開催のハイブリット開催を望む方が 65.1%、WEB 開催のみを望む方が 28.3%おりました。この数値は、ポストコロナの今後の学会のあり方を考える上で、たくさんの重要なメッセージをいただいたと感じております。

WEB 開催を終えてみて

一方で、反省すべき点も多々あります。今回は、準備時間が限られていたこともあり、非会員の方々に参加いただくしくみを準備できませんでした。例年ですと 1,500 名程度の非会員の方々の参加がありました。ビデオファイルを送っていただいたにもかかわらず、非会員の国内外の講演者には参加いただくことができませんでした。総会は、興味を示していただいている皮膚科周辺領域の方々との情報交換の重要な場であります。そして、社会に情報を発信する大きな役割もあります。今回は、その役割が果たせなかったこと、大変残念であり、申し訳なく思っております。

また、4 日間の総会期間中、私は教授室の一部をスタジオ化してこもっておりましたので、学会場での賑わい、活気、笑い声、挨拶等がなく、寂しい思いもありました。会食、懇親会もありませんでしたので、人との出会い、交流もありませんでした。そして、学会を当番校として主催したという写真も残っていません。やはりいつか、新型コロナ感染症が落ち着き、今までと同じように現地で、多くの人々の賑わいの中、学会ができる日が、そう遠くない将来に来ることを待ち望んでいます。

結びに、第 119 回日本皮膚科学会総会の準備、運営、開催にあたりまして、事務局長の山上淳さん、実行委員長の高橋勇人さんを始め、慶應義塾大学皮膚科学教室、同窓会の皆様に、そして、山田さん、山本さんを始めとした学会事務局の皆様に心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症との戦いはまだまだ続きますが、この放送を聴いていただいている皆様におかれましても、呉々も健康にご留意いただき、診療、教育、そして、研究にと益々ご活躍されることを心より祈念しております。本当にありがとうございました。